
ある人間の人生

舞月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある人間の人生

【Nコード】

N7457N

【作者名】

舞月

【あらすじ】

あるところに、一人の男がいました。

彼は、既に何千もの戦場を乗り越え、生きることの意味を持てなくなっていました。

だけど、彼は一人の戦場を境に、人が変わったかのように生きるために生きていました。

殺した。

味方一人を助けるために、一〇〇人の敵を殺した。

殺した。

自分を助けるために、仲間と敵を、あわせて一五〇人殺した。

殺した。

国を守るために、一人の尊い犠牲の代償にその主犯を殺した。

殺した。

そんな人生しか送ってこなかった、自分のココロを殺した。

だけど、彼女は言った。

『生きるために生きましょう。エゴなんて、もうどうでもいいのよ』

それから、私は銃ではなく剣をとった。

そして、”護った”

味方一人を助けるために、一〇〇人の敵を戦闘不能にした。

殺してなんかいない。ただ、必要なら片腕をもらい、必要がなければ峰打ちで叩くだけ。

護った。

自分を助けるために、仲間を守って、敵は極力傷つけずに、援軍を呼ぶことで撤退させた。

護った。

国を守るために、一人の犠牲者も出させずに、その主犯も殺さずに、拘束した。

護った。

そんな人生を送ってこれた、自分のココロを護った。

銃は人を殺す道具。

剣も人を殺す道具。

だけど、銃は始めから人を殺すためだけに作られ、

剣は製作者の意思が宿っていた。

私は、『剣を作る』ために生まれてきた。

親はいない。ただ、養父は刀鍛冶だった。確か、とても有名な人だったと思う。

戦争から身を引いて、私は刀を作った。正確には刃物だろうか。人のために役立つことをしようと思った。

それから、何があったかはよく覚えていない。

それでも、自分のしたことが人のためになったのならば、私の人生は、満たされている。

（後書き）

電波だなあ、俺の小説。

取り敢えず三秒で思いついたものなので、グダッグダですが、感想とか書いてもらえると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7457n/>

ある人間の人生

2010年10月9日21時56分発行